

平成29年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	生徒の学習意欲を向上させる教育課程を編成し、組織的に授業改善に取り組むことで主体的な学習態度を育む。 地域の教育力を活用し、豊かな人間性や社会性を培う。	授業力向上推進重点校として、公開研究授業、成果発表会を実施する。地域教育機関と連携し生徒の学力を育成する。 外国につながるのある生徒への学習支援を外部専門機関と連携して行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善に取り組む。コミュニケーション能力や思考力の育成を図る授業を研究し、公開研究授業等で実践する。生徒への事後アンケートや県教委等、外部関係機関からの指導助言をもとに検証改善を加える。 ・家庭総合の授業を通じて、地域の食文化理解とコミュニケーション能力の育成を図る。 ・学力スタンダードを活用し計画的学習を実施し、振り返りを行う。 ・定期試験等において基準点に到達できなかった者に対する「再学習指導」を完全実施する。 ・多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)等の外部専門機関と連携し在県外国人等特別募集での入学生徒に対して学習支援を行う。個別対応授業やT・T形式授業によりきめ細かな指導を行い、在籍クラスでの通常授業へ戻るための支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価等から生徒の満足度、達成度が高まったか。 ・地区研究協議会を中心に、学校間協議を行い、研究推進を図ることができたか。 ・再学習指導によって定期試験等において基準点を達成する生徒の数が増えたか。 ・外部専門機関との連携や個別対応授業、T・T形式授業等の学習支援での効果として、外国につながる生徒が、本校の学校生活、学習習慣等に慣れ、通常授業に戻ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上をテーマに6月、11月に公開研究授業を実施し、生徒アンケート、外部関係者の指導助言をもとに改善を図ることができた。 ・学力スタンダード(年間指導計画)の活用は定着してきたが、主体的に活用できていない生徒もいる。 ・「再学習指導」を定期試験ごとに完全実施することができた。 ・在県生徒への学習支援を外部機関との連携や個別対応授業を通して効果的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業力向上推進校」として公開研究授業の取組み、活動発表会の準備や進め方、地区の学校への還元方法を今後は考えていく。 ・学力スタンダードの活用方法、取組へ教員間の差をなくすよう集計データの活用方法等について、今後は検討する。 ・学力スタンダード(年間指導計画)を生徒が主体的に活用できるように活用方法を生徒へ周知する。 ・再学習指導が生徒の学力向上につながるようにやり方や実施期間を工夫する。 ・在県生徒の日本語能力向上のために補習等を充実させる必要がある。 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変化が目に見えて明らかである。さらにステップアップを目指していく必要がある。 ・学力スタンダードの活用方法と効果についてよりわかりやすくする。 ・アクティブ・ラーニングの研究をより進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業力向上推進校」の地区担当校として、研究成果発表会等を実施した。 ・授業力向上の具体的な目標を明確にし、研究授業等に落とし込む必要がある。 ・学力スタンダードの具体的な活用方法、集計データの分析を活かすことを継続課題とした。 ・再学習指導を定期試験ごとに換算実施した。 ・在県生徒への支援体制は整ってきた。日本語能力向上の支援体制が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験で、基準点(30点を設定)に到達できなかった者に「再学習指導」を実施した。今年度の振り返りを行い、放課後の「進学講習」と合わせて、生徒の進路実現のための、学力向上に取り組む。
生徒指導・支援	社会性・公共心のある生徒の育成をめざし、生徒一人ひとりに応じた相談体制を充実させ、安心して学べる学校づくりを推進する。	規範意識の醸成を図り、落ち着いた学習環境を整備する。一人ひとりに応じた相談体制を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪服装指導(スカート丈指導等)を徹底し規律ある学習環境を維持する。 ・SCやSSWを有効活用し、ケース会議等の相談体制を充実し、きめ細かな支援体制とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再登校指導を前年度比減とできたか。前年度より20件減を目標とし、3年かけて指導数を0とする。 ・組織的な相談体制や情報共有システムを確立できたか。 ・システムを活用しケース会議等を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再登校指導 H28(56件)→H29(22件)44件減、身だしなみ指導の定着により、再登校に至る前に指導ができた。 ・コーディネーターを中心にSCやSSW、養護教諭の情報共有システムを確立することができた。 ・情報共有システムであげられた生徒へのケース会議を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年比20件減を達成することはもちろんだが、数字が先行し、指導が緩くならないようにする。 ・情報共有システムにあがってこない生徒をいかに上げていけるかが課題である。 ・ケース会議の日程や時間の設定が困難であった。 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> ・非常に落ち着いた様子が見られる。 ・通学途中の生徒があいさつをしてくる。学校全体の取組として評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再登校指導20件減を達成できた。教員間の指導のブレをいかに抑えていくかが課題である。 ・コーディネーター・SC・SSW・養護教諭の情報共有システムは確立できた。より緊密な連携方法を模索し、ケース会議等を通して生徒のより良い支援につなげることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会等、生徒が一同に集まる場面で、複数の目による指導基準の平準化をはかる。教員間の指導のブレを抑えるため、担当クラスを入れ替える等指導方法の変更をする。 ・情報共有システムの円滑な運用とケース会議の定期開催を進めていきたい。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	入学から卒業までのキャリア教育を体系的に策定し、生徒が社会と主体的に係わり、自らの将来を自主的・主体的に考える姿勢を育む。	上級学校への進学を中心に、進路実現に向けた手立てを行う。学校行事、部活動、ボランティア活動等における生徒の主体的な活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 校外模試等を実施し、外部専門機関からの最新の情報を活用した進路指導を行う。 放課後講習を実施し、生徒の学習意欲と実力養成を図る。 インターンシップや上級学校訪問等により、主体的に進路選択する姿勢を育む。 生徒主体の学校行事となるよう支援を行う。 部活動の有用性をアピールし、退部者減少に努める。 清掃活動、学校行事の準備、地域ボランティア活動への参加等、学校内外の様々な場面で準備や運営に参加するように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門機関と連携した進路指導、情報提供が行えたか。 校外模試や講習の参加者は増えたか。 70%以上の生徒がインターンシップ、上級学校訪問等に参加したか。 生徒による企画運営の行事が行えたか。 部活動の退部者が減少したか。 ボランティア活動等に積極的に参加する生徒が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門機関等と連携し分野別進路説明会、小論文添削指導等を実施した。 実力養成の特別講習を実施し、夏季休業中には、英語、国語、数学の3教科実施で、1年生約50人2年生約20名の参加があった。 大学短大への進学実績は119名(平成29年12月)あり、前年度比クラス減(40名減)にもかかわらず同程度の実績を残せた。 部活動加入率が前年比約5ポイント減少した。1年生は全員加入であるが年度末までに約70名の退部者があった。ボランティア活動には延べ100名程度の生徒の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き外部機関の協力を得て、進路を考える機会を設けたい。より進学に重点を置き、招聘する大学を選定したい。 特別講習の参加人数の増加を図り、生徒の意識が高まる工夫を考えたい。 インターンシップを通じて職業観育成につなげたい。 引き続き、生徒主体の学校行事運営の充実を目指したい。 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> インターンシップや上級学校訪問は、進路選択や職業観育成に効果的である。 文化祭、体育祭をはじめ、学校行事盛り上がりを感じとれる。生徒の意識や意欲を見てとれる。地域連携にも効果的である。 一部の實力ある部活動ばかりでなく、部活動全体として活性化を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上級学校を志望する生徒が増加している。進路希望にあった進路説明会等を計画する。 実力養成の特別講習をさらに充実させる。 各行事は生徒実行委員会を中心に企画・運営を行っている。引き続き、生徒の主体的活動を支援していく。 部活動の加入率は70パーセント前後を保っており、1年生全員加入の目的はほぼ達成できている。退部者については減少させる対策が必要である。 地域に対して貢献する意識を植え付けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路説明会へ招聘する大学等を見直し一つ上を目指し意識付けにつなげる。 長期休業中等を活用して特別講習への参加率を上げる。 生会各行事は引き続き、生徒主体の行事となるよう支援していく。 部活動の有用性をアピールする。退部者にはほかの部活動に加入するよう勧める。 清掃活動、学校行事の準備、地域ボランティア活動への参加等、学校内外の様々な場面で主体的に関わるように指導する。
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	地域の教育力を活用した公開講座、ボランティア活動等を実施する。伊勢原市内の小中学校と連携し、開かれた学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極的な参加を促す。また、地域の方々と大山豆腐づくり講座を行う。 学校説明会やオープンスクール、またHPの内容等の充実を図ることにより学校の情報を広く地域に提供し、開かれた学校づくりに取り組む。 伊勢原市内の小中学校との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々と協働連携した事業展開ができたか。 HPなどによる学校の情報提供により、中学生や保護者、地域の方々の本校に対する理解が深まったか。 伊勢原市内の小中学校との連携ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大山豆腐づくりなど地域と連携した活動をとることができた。 近隣中学校の生徒の高校訪問受け入れや、中学校での学校説明会など連携を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座等において、地域の参加をさらに増やすように広報する。 中学校への訪問で、本校の特色(再学習指導・演習授業)を伝え、中学生の興味関心を引き出すように工夫を行う。 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> 部活動を中心に、地域に大きく貢献している。高校生の参加は、地域の活性化につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会には多くの中学生や保護者が来校し、本校の特色など提供することができた。 地域や中学校との活動を通して、生徒の自主性・協調性を高める取り組みを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのさらなる充実と、学校説明会の時期や内容を工夫など、中学生や地域の多くの方々に情報を発信し、本校に対する理解をより深められるようにする。
5	学校管理 学校運営	いのちを守る防災教育を推進する。様々な解決すべき課題に対し、組織的に取り組み、事故防止を図る。自他の命を守る防災教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアルの内容を教職員及び生徒が実践できるよう周知し、災害時に自他の命を守る能力を養う。 災害時の生徒の避難経路や保護者への引渡し方法を再検討する。 地域と連携した防災訓練等を実施し、円滑な避難所運営に資する。 複数チェックや報告・連絡・相談の徹底など事故防止システムの徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアル(抜粋やフロー図等)の廊下、教室等への掲示による周知 昼食時の放送等を活用した災害時行動マニュアルの啓発等、新しい手法での意識啓発や周知方法の実施 朝の打合せ、会議等様々な機会を捉えて職員防災意識の啓発を図る。 「例年通り」を打破した防災訓練の実施 「事故防止の一言」の有効活用策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな防災意識啓発の取組みを複数実施したか。 防災委員を活用した新たな取組みを実施したか。 災害時の生徒の帰宅や保護者への引渡しについて再検討しマニュアルを改善できたか。 防災訓練において昨年以上の地域の方の参加があったか。 「事故防止の一言」の方法を、より効果の高い方法に改善できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を取り入れたり地域消防署と連携したりした防災訓練を実施し、生徒の防災意識の高揚を図ることができたが、地域の方の参加は少なかった。 大地震発生時の保護者による生徒の引取り方法を整理し国や県の指針に合わせることもできた。 上記に加え防災倉庫の整理など防災体制の整備に注力したが、掲示や放送を活用した生徒へのアプローチは取組みが不足していた。 毎朝の「事故防止の一言」が功を奏し、職員の事故防止意識の向上が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の防災体制は向上したが、生徒の防災意識向上に向けた取組みが不足していると考えられる。来年度は生徒防災委員会の活用方法等を検討し、生徒へのアプローチを強化する必要がある。 	(学校評議員) <ul style="list-style-type: none"> 防災は、行政機関でも重点課題としている。学校、行政、地域の連携を引き続きお願いする。 学校の防災訓練に地域が参加することは、防災拠点の役割として期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫の点検、整理や大地震時の保護者による生徒引取り方法の検討など学校の防災体制を整備することができた。 生徒の防災意識向上を図る取組みは、年に2回の体験型防災訓練にとどまり、日常的な意識の向上につながる活動を検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒防災委員会の年間活動予定を作成し、活動目標や活動内容を認識させ、実践に活かしたい。 防災訓練、DIG研修等、防災教育の場面で、防災委員の活躍の場を積極的に提供し、防災委員であることの認識を高め活動を活性化していく。